

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 3 月 5 日作成)

小委員会名	各部構法計画小委員会	主 査 名：野城 智也 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：布野 修司
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・各部構法の実態を把握し、問題点を整理するため、先進的、特徴的な構法を用いた建築物の見学会を実施する。 ・建築部品の多様化の中でのディテール設計を考える勉強会(講演会)を開催する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：野城智也(東京大学生産技術研究所) 幹事：小見康夫(武蔵工業大学) 幹事：信太洋行(東京大学生産技術研究所) 大野隆司(東京工芸大学) 甲藤正郎(東京大学大学院生) 加藤雅久(居住技術研究所) 門脇耕三(首都大学東京) 菊地勝広(横須賀市自然・人文博物館) 志岐祐一(日東設計事務所) 角田誠 (首都大学東京) 中島裕輔(工学院大学) 名取癸 (東洋大学) 南一誠 (芝浦工業大学) 村上心 (椋山女学園大学)(全 14 名)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築病理学研究ワーキンググループ：既存建物に見られる様々な症状の分類方法、症状の原因、対処法を検討し、出版物を企画。	
2006 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s2/

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 活動報告会 参加者数 11 名 「建築病理学研究 WG の活動報告」 「本年度のテーマについて」「主体別の図面に見る守備範囲」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. <u>今日的テーマの抽出</u> 社会的な条件が大きく変わろうとしている現在、今まで「標準」と考えられてきた技術や技能が成立しなくなっているのではないかという問題意識の中で、「すりあわせ」というテーマを抽出した。</p> <p>2. <u>開口部周りにおける「すりあわせ」の事例分析</u> 最近の開口部周りを対象に、ゼネコン・サブコンの標準図面と設計事務所のコンセプトを具現化した出来形図を比較することにより、設計・施工プロセスに生じたであろう「すり合わせ」を抽出し、問題点を推測した。すり合わせは、「モノ」と「人・情報」の二つに大別され、議論を通じ問題意識を共有した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 主要な活動が机上での図面分析であったため、来年度はそれを裏付けるために、専門家へのヒアリング等が必要と考える。</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。